



安倍晋三内閣総理大臣（当時）より首相公邸に招待を受ける（メコン首脳会談前夜祭、2019年、川辺尚彦氏提供）

1937  
MIYAZAKI

2005  
KUMAMOTO

連載再開

剣道具の製造工程、すべて見せます

# 続・日本がつくる剣道具

構成／本誌編集部

※2018年1月号で途切れた連載を今月号から再開いたします。

## 第一回（序章） 日本がつくる剣道具

多くの読者をご存知のように、現在流通している剣道具（防具）の大部分は中国・韓国・台湾企業などで製造されており、海外で製造する日本企業独資としては（株）全日本武道具の一家といわれている。

一方、日本国内では伝統技術を守る職人が細々とくっついているという印象が強いが、宮崎県西都市にある（株）日本剣道具製作所では、コロナで製造数がダウンしたものの月に300組という大量の剣道具を製造している。間違いなく国内では最大規模で、市場に流通している日本製剣道防具の80%以上を製作するともいわれている。

この両会社を経営しているのが川辺尚彦氏である。『剣道日本』では2016年より1年間、剣道防具についての記事を連載していたが、今回からこの企画を再開する。剣道をするうえでもっとも重要な剣道具をより知っていただくために、再度川辺氏を水先案内人として現状をつぶさに紹介していく。

### ■まず本題に入る前に 川辺氏のルーツを紹介

川辺氏は熊本の源武堂にて修業時代を過ごす。

「当時は修業しながら覚える時代でした。そのころに故・木村興光社長のそばで経験させてもらったことが今の私につながると思います。一緒に銭湯にいき背中を洗い、カバン持ち、商売談、家の掃除、運転、知識、目利き、厳しくも温かみのある経験をさせていただきました」

当時源武堂と言えば一世を風靡した火の国という竹刀が代表的であった。大きな大会で選手がブースに集まり列をなしていた思い出もある。

「それと源武堂に後藤昌という職人がおられ弟子入りました。熊本刑務所の防具は私が知るかぎり日本で最高クラスの手刺防具ですが、その技官出身で防具製作を指導されていたそうです。早朝、仕事合間、夜と、防具作りを徹底して学びました。商売するなら自分で



日本剣道具製作所で働く人たち。年齢は高齢化しているが、最近は地元での認知度が上がってきて応募する人も増えている（撮影 窪田正仁）

作らなくてできるのか？ と激をもらい製作してました」

■「時代は大きく変化しましたね」と川辺氏は語る

「昨今はインターネットも普及し誰でも武道具店を開店できる時代。手を上げれば誰でもメーカーから仕入れて武道具店ができる。資金さえあればできる。このような時代に今後良い防具ができるのかという不安もあります。私は宮崎にある日本剣道具製作所で徹底して防具製造を後世に教えていきたいと思っています。これが少しでも日本の剣道界を守る足がかりになればと考えています」

話に出てきた日本剣道具製作所だが、旧社名は多田産業株式会社。戦前の昭和12年（1937年）に創業した老舗であるが、経営に行き詰まって平成23年に民事再生法を申請、その後平成26年になって川辺氏が経営者として再生を手がけることになった。

## ■【2016年1月号記事より抜粋】

川辺氏は武道具店勤務を経て25歳で独立し、熊本市で（株）全日本武道具を創業した。全日本武道具の剣道具は「ALL JAPAN PITCH」のブランドで知られ、現在は多くの愛用者を獲得しているが、独立当初、多くのメーカーから取り引きを拒まれたなかで、最初に快く引き受けてくれたのが当時の多田産業だったという。そんな思いもあって日本剣道具製作所の経営を引き継ぐことになった川辺さんは、全従業員の雇用を継続し、現在は70名ほどが社員・パートとして働いている。また、元従業員に声をかけて、80名ほどに自分の家での作業、つまり内職をしてもらっている。

川辺氏は「最終的には、剣道具づくりを日本に戻したい」と言う。全日本武道具では海外で製造し日本で

販売することからスタートしたが、コストがかかる日本での製造も手がけた理由がそこにある。

「これは武道具業界の皆さんに言いたいことですが、剣道具づくりは昭和にまず韓国へ移行して、韓国の賃金が高くなってきたため韓国から中国に移りました。そして今は中国の賃金が高くなりベトナムやミャンマー、インドネシアなどにどんどん移っています。それは、せっかく10年20年積み上げた技術を捨てていくということなんです。では次に移った国の賃金が上がってきたら、今度はどうなるのでしょうか。最終的に戻る場所は日本ではないかなと思います。」

もったいない海外の拠点が見つかるかもしれませんが、10年後、20年後かもしれません。最終的に日本に戻らうと思ったときに日本に工場がなかったらまたイチからになってしまいます。というより、今の日本の職人さんを大切にしておかないと、そのときはもう日本でつくるのができなくなっているのではないかと思います」（川辺氏談）

次回より、このような状況になりつつある今を語ってもらいたいと思う。

案内人

かわべ たかひこ  
川辺尚彦

（株）日本剣道具製作所  
（株）全日本武道具代表取締役



昭和55年熊本県多良木町に生まれる。  
多良木高校卒業後、大学を中退して武道具業界に飛び込む。  
25歳で独立し全日本武道具を創業、  
平成26年日本剣道具製作所の経営も手がける。  
平成29年自社海外工場を設立。  
令和元年、内閣総理大臣安倍晋三より首相公邸へ招待を受ける。  
市場80%以上の日本製剣道防具を製造。